



今月号の主な内容

- ・ 胃胸部X線検診車完成披露式
- ・ 子宮がん検診を受けましょう
- ・ 職員紹介
- ・ 震災に備えて
- ・ 事業団からのお知らせ



山梨県

健康管理事業団

だより

平成23年 春

発行：財団法人山梨県健康管理事業団
〒400-0034 甲府市宝1丁目4-16
TEL：055-225-2800 FAX：055-225-2809
ホームページ <http://www.y-kenkou.or.jp>

胃・胸部X線デジタル検診車の完成披露式

平成23年2月16日（水）に当事業団において、胃胸部併用X線テレビ検診車完成披露式を行い、約60名の方に出席して頂きました。ご来賓の皆様方には、大変お忙しい中、御出席くださいまして感謝申し上げます。

事業団では、がん検診の普及を進めています。今回、胃部・胸部の両方をデジタルX線撮影できる検診車を導入しました。現在、国民の2人に1人が、がんにかかる可能性があると言われています。早期発見・治療が必要になり、そのためにも鮮明な高画質撮影ができるデジタル検診車が有用となります。今後も、検診車の整備を推進していきます。

胃胸部1号



来賓の方々



検診車の鍵の引き渡しの様子

日本対がん協会 塩見事務局長様（左）から
健康管理事業団 薬袋理事長（右）へ



テープカットの様子

(左から)

(財)山梨県健康管理事業団

理事長 葉袋 健

山梨県町村会 副会長

富士川町長 志村 学様

山梨県知事 (代理)

福祉保健部長 古屋 博敏様

(公財)日本対がん協会

理事・事務局長 塩見 知司様

東芝メディカルシステムズ(株)山梨支店

支店長 小黒 正広様

☆胃・胸部併用デジタル検診車の特徴

- ①胃部・胸部の撮影が同時並行でき、より鮮明な高画質撮影ができるデジタル撮影装置搭載。
- ②撮影画像がリアルタイムに表示され、追加撮影がその現場でできる。
- ③画像がデジタル保存できるため、過去の画像との比較が容易になる。
- ④フィルムレスのためフィルムや現像液などの薬剤が不要になり、省資源に寄与する。
- ⑤検診車内部は床暖房を完備し、冬期も暖かい。
- ⑥受診者に優しいフラットな検診車内部となり、更衣室は個室となるためプライバシーが守られる。

車内



撮影装置



子宮がん検診を受けましょう

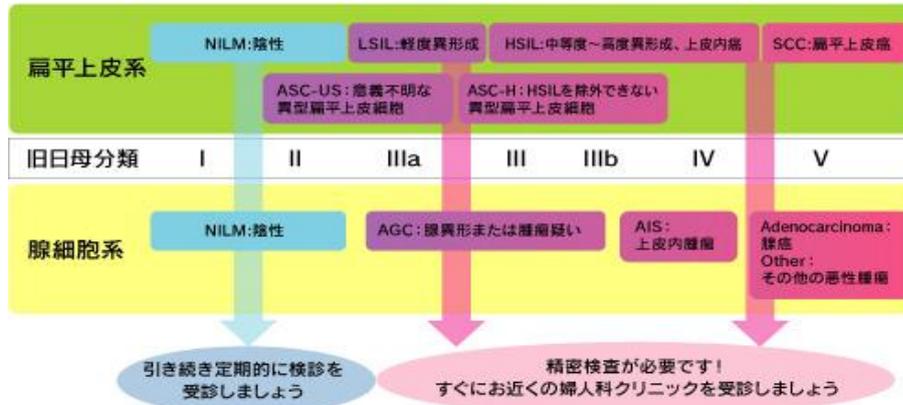
子宮頸がんは、毎年15,000人が診断され約3,500人が子宮頸がんで亡くなっています。つまり、毎日、日本全国で約10人が子宮頸がんで亡くなっていることとなります。

■増加の原因は検診受診率の低さー日本20%（欧米先進諸国60ー80%）

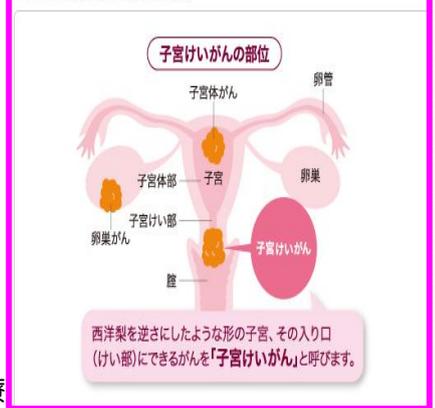
■検診ー子宮頸がん検診のすごいところ！！

前がん（がんになるかもしれない）病変「異形成」診断できる事です

■2009年より「ベセスダシステム」という新しい診断記載が開始されました。



図：子宮の構造と女性性器がんの種類



■診断、治療

高度異形性や初期の上皮内がんー円錐切除術で100%治る

3ミリより大きいがんー広汎子宮全摘術

4センチを超えるがんー放射線と抗がん剤併用の大きな治療

■子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス(HPV)が99%を占めています

発がん性HPVは全ての女性の約80%が一生涯に一度は感染するといわれています

発がん性HPVのごく一部が持続感染を起こし5~10年以上の無症状を経て前がん病変となり、

その一部が子宮頸がん進行します

■予防

子宮頸がんの定期検診を

20歳を過ぎたら、2年に1回受診しましょう（必要に応じて、1年に1回の受診を）

子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン）接種

HPV16型とHPV18型の感染の予防に有効です

ワクチンの効果は20年以上持続と推測されています

ワクチン接種後も子宮頸がん検診受けて前がん病変のうちに見つける事が大切です！！！！

職員紹介

平成21年7月より検査課に入職いたしました
小川絵里と申します。
まだ至らない所が多々ありますが、早く仕事に慣れるよう努力していきますので、ご指導の



検査課
小川 絵里

平成23年(2011年) 東日本大震災を受けて

平成23年3月11日(金)14時46分ごろ、三陸沖を震源としたマグニチュード9.0の地震が発生しました。被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。

大地震に備えて日頃から準備しておきましょう

地震対策チェック

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 耐震診断・補強を行っている | <input type="checkbox"/> 近所にどんな人が住んでいるか知っていて交流がある |
| <input type="checkbox"/> 家具の転倒防止策を行っている | <input type="checkbox"/> 防災について家族で話し合いをしている |
| <input type="checkbox"/> 食器棚などの収納物の落下防止をしている | <input type="checkbox"/> 避難所の場所、避難ルールを複数確認している |
| <input type="checkbox"/> ブロック塀や外壁の点検、補修をしている | <input type="checkbox"/> 地域の防災活動に参加したことがある |
| <input type="checkbox"/> 通路に物を置かない | <input type="checkbox"/> 非常用持出品・備蓄品を用意している |

〈山梨県総務部消防防災課 ホームページより〉

地震・災害に備えて準備しておきたい防災用品

- ・貴重品
現金、預貯金通帳、権利証権、免許証、保険証
- ・非常食品(災害復旧までの約3日間を自給自足できるもの)
乾パン、缶詰、レトルト食品、栄養補助食品、ごはんなど。紙皿、紙コップ、割り箸も。
飲料水 目安は一人一日3リットル
- ・携帯ラジオ、懐中電灯(予備の乾電池も)
- ・応急医薬品
絆創膏、包帯、胃腸薬、消毒薬など。
- ・その他の生活用品
上着・下着・靴下などの衣類、軍手、タオル、ライター、ろうそくなど。

地震発生時の行動はどのようにすればよいのか

- 身体の確保
(1)身体的安全を図る場所へ
(2)慌てて外へ飛び出さない
(3)出口の確保
- 出火防止

地震発生後の行動はどのようにすればよいのか

通常の地震では、どんな大きな地震で激しい揺れは1~2分でおさまっています。慌てずに行動することがポイントです。

- 出火防止と初期消火
- ガラス・落下物に注意
- 自宅・自宅の周りの被害状況
- 情報の入手
- 安全管理



災害用伝言ダイヤル171を活用しよう

災害発生時(震度6弱以上の地震など)には、NTTの災害用伝言ダイヤルサービスが稼働します。家族や知人の安否を確認するときには、このサービスを利用しましょう。

伝言を録音するときは

171+1→被災地の人の電話番号→伝言内容を吹き込む

伝言を再生するときは

171+2→被災地の人の電話番号→伝言内容を聞く

事業団からイベント・健診のお知らせ

☎保健師のがん無料電話相談

相談日 毎週火曜日 午後1:00~5:00 1人20分
専用ダイヤル 055-227-8740



※23年度も山梨県健康管理事業団では様々な健診を実施していく予定です。健診の日程などについては、決まり次第ホームページなどでお知らせいたします。